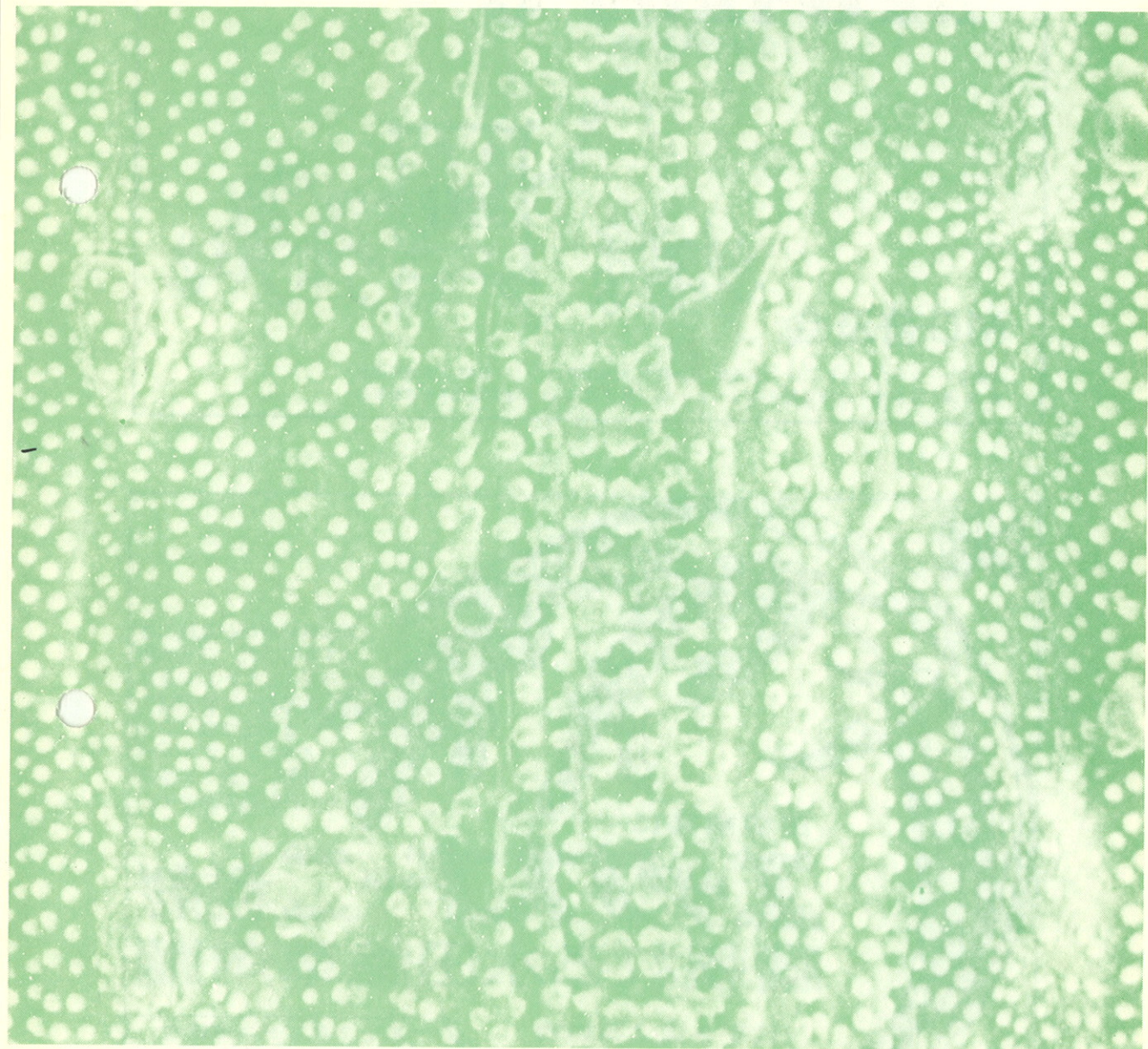


植調

第10卷第8号



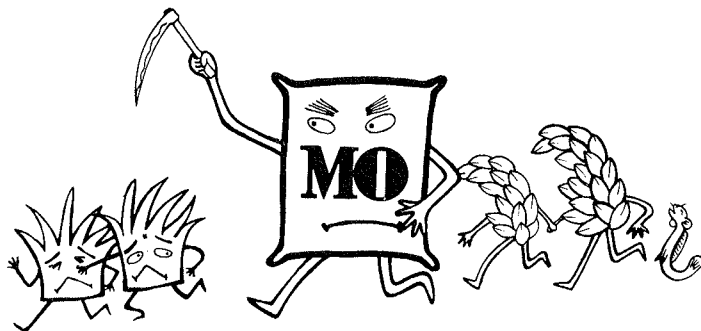
財団法人 日本植物調節剤研究協会編

安全でよく効く!

——水田除草剤——

MO粒剤-9

(CNP除草剤)



MO普及会

取扱会社 クミアイ化学、三共、北興化学、八洲化学、日本農薬、サンケイ化学、三井東圧農薬
事務局 東京都千代田区霞が関3-2-5 (霞が関ビル) 三井東圧化学株式会社内



稚苗移植栽培が急速に増加するにつれ、抑草期間が長く、しかも安全な除草剤への要求は、ますます強くなっています。エックスゴーニ粒剤は、これらの要求にピッタリの除草剤です。

田植前後に

エックスゴーニ粒剤

頼れる水田除草剤

代かき後7日以内
にお使いください。

エックスゴーニ協議会



日本農薬株式会社
〒103 東京都中央区日本橋1-2-5



石原産業株式会社
〒550 大阪市西区江戸堀上通1-11-11

資料請求券
植 剤
エックスゴーニ

雑

感

稔りの秋、深刻な冷害を耳にし目にする昨今、今年の秋のイメージは誠に暗い。景気の回復も思わしくなく、出稼ぎ先も思うにまかせぬ農家の悩みに胸をうたれる。こゝ数年、世界の動きは、平和主義の虚像を実像と取り違がえていた吾々日本人に、改めて食糧と資源に国境のあることを思い起こさせてくれた。お陰で農業問題が、真剣に前向きに論じられ始めた。こんな事を考えるとき、私がいつも思い出すのは、ちょうど減反ショックと農薬公害論で、吾々の周囲が沈滞しきっていた頃、韓国に出張した時の印象である。韓国の地方を廻るなかで、各道の農業振興院の方々に数多くお目にかゝったが、その方々の主食100%自給のテーマと取り組んでいる生々とした顔と言葉は、私にとって感慨深いものがあつた。今年の冷害は、稲作に対する技術面の論議を再び活発にするのではなかろうか。戦後の食糧問題の解決は、保温折衷苗代・パラチオン・肥料の三ツに支えられた。そして早植えによる安定増収を課題として、育苗技術・メイチュウ防除・増肥施肥法とを一体として組み合わせた総合性が、大きな成果を産んだものと考えられる。昔をふり返り今を思うと、この総合性、言いかえれば関係諸技術を総合的に組み立て、それを規格化することの思惟が、これからの稲作技術の探究に、より大切になってくるものと考えられる。もちろん、行政面でより総合性に富み、有機的に組み立てられた農業政策が必要なことは言うまでもなく、農薬の研究・開発に対する積極的な政策が、その中に織り込まれるべきである。

(日産化学工業(株) 取締役 高橋 俊一)

目次 (第10巻第8号)

休耕畑の雑草……………	2
<農事試験場畑作部 中山兼徳>	
1. 休耕畑の雑草害……………	2
2. 休耕畑と雑草の生態……………	3
3. 休耕畑の復元と雑草対策……………	5
野菜の除草剤について……………	6
<野菜試験場久留米支場 栗山尚志>	
第1表 作物別・除草剤別使用基準登録の有無一覧……………	7
第2表 野菜用除草剤の野菜の種類別登録・末登録薬剤数……………	9
第3表 野菜用除草剤と使用基準……………	10
第4表 末登録薬剤とその薬剤特性……………	32
除草剤使用面積一覧表……………	34
<財団法人 日本植物調節剤研究協会>	
植調協会だより……………	40

原稿募集

当誌では、愛読者の皆様より当誌に掲載する原稿を広く募集いたしておりますので、ふるってご投稿のほどお願い申し上げます。

内容は、除草剤や生育調節剤の研究・普及に関する記事で、頁数は400字詰原稿用紙で20～30枚位でまとめて下さい。

掲載いたしました際は、当協会規程の原稿料をお支払いいたします。

休 耕 畑 の 雑 草

農林省農事試験場畑作部作業体系第1研究室長 中山兼徳

休耕畑に関する問題については、マスコミにおいても、一時大きく取り上げられたが、最近では、地価上昇が緩やかになったこと、市町村で草刈条例などを制定したこと、などもあって、あまり話題にならない。しかし、問題は少しも解決されていない。むしろ、休耕畑が当り前になることに不安を感じる。本稿では、休耕畑に関わる問題およびその雑草の発生生態などについて、若干の話題を提供したい。

1. 休耕畑の雑草害

雑草害として、まず話題にあがるのは花粉公害である。これは休閑地に発生する雑草などの花粉が原因で、鼻炎、ぜんそくなどを起こすというものである。ニュース価値が大きいため、新聞紙上に上げられることが多く、東京都では、昭和45年に、その実態調査を指示したこともある。

ある種の植物の花粉によるアレルギーで起こる鼻や目の粘膜の炎症は枯草熱といわれ、その処置が適当でないと、ぜんそくに進むこともあるといわれる。これが、いわゆる花粉病で、季節的に起こるものである。花粉病を起こす花粉は風媒花のもので、多量の軽い花粉は風の力で飛散する。花粉病については医学の分野で研究が進められ、順次明らかにされようが、稲・麦・チモシーなどの作物、アカマツ・クロマツ・スズカケなどの樹木の花粉も影響があるとされ

ている。しかし、最も問題とされているのは、ブタクサ・クワモドキ（オオブタクサ）である。クワモドキがわが国に入ったのは第2次大戦後で、その分布は狭いが、ブタクサは広く分布し、休閑地の優占種になっていることは珍しくない。私達の試験場でも今年、放牧地（今年は放牧しなかった）にブタクサが大発生した。

休耕畑の雑草害として意外に知られていないのが、雑草火災である。タバコの吸いがらや子供の火遊びで休耕畑の雑草が火災を起こすものである。この統計については明らかでないが、昭和49年1月の朝日新聞京浜版の記事を紹介しよう。横浜市消防局が昭和48年11月11日から49年1月20日までの70日間の火災状況を調査している。その間の火災は347件、その内訳は建物火災が180件で、次いで雑草火災が126件である。つまり、火災の3分の1が雑草火災である。この期間はカラカラ天気であったことにもよるが、それにしても多いのに驚く。私の住む埼玉県北本市でも雑草火災はよくあるが、直接の被害が少なく、サイレンで夜間に起こされる程度であるので、話題にはなっていない。しかし、住居周辺の場合では恐ろしい。さらに、住居周辺の休閑地は蚊などの生息地になるとともに、美観、衛生上の面からも好ましくない。

私達のような農業サイドからは、休耕畑は土地利用の面からもったいないということが第一にくるが、直接には、害虫や小動物の発生源と

して周囲の畑に被害を与える。たとえば、ウィルスの媒介をするウンカやツマグロヨコバイはヒエ類やその他多くのイネ科雑草を寄主植物としている。主要ウンカとツマグロヨコバイの寄主植物については脚注¹⁾の報告書に詳しく記されている。そのほかにも各種の昆虫が集まる。さらに、野鼠やモグラの生息地ともなる。私達は圃場の中に試験用として休耕畑を設定したことがあるが、周囲の畑がモグラの被害を受け、ついにはモグラ取り機を仕かけ、いつのまにか、モグラ取りの名人にされてしまった経験もある。そのほか、雑草そのものが雑草の発生源となっていることはもちろんで、とくに多年生雑草の侵入は恐ろしい。

2. 休耕畑と雑草の生態

休耕畑の面積あるいは地域的分布を調査したものは見当らない。一般的には都市近郊ほど休耕畑が多く、畑専作地域ほど少ないと推定されるが、私の住む北本市の実態を紹介しよう。

北本市は東京駅から約46km、15年前までは人口1.7万人の農村であったが、現在では約4.7万人にふえ、東京のベッドタウンとなり、農家もほとんどが兼業である。調査は昭和49年に、北本市の中央を南北に走る高崎線を境にして、その西半分、つまり農事試験場畑作部の位置する畑作台地について行なった。その結果、約655haの畑面積のうち、4%強にあたる27.7haの休耕畑がみられた。市街化区域は相対的に休耕畑が多く、休耕年数の長いものが目立った。これらのなかには、宅地予定地も含まれている。市街化調整区域の休耕畑は低湿地、傾斜地、平地林の山沿い地など不良地に多く、また、兼業

比重の高い部落や農家の畑に多かった。均平な一等地には休耕畑は比較的少なく、最近では、その復元もみられている。

北本市の休耕畑の雑草は60種にわたり、優占草種は畑の条件あるいは休耕年数により違うが、メヒシバ・ヒメムカシヨモギ・ススキ・チガヤ・アズマネザサ・カナムグラ・ヤブガラシ・クズ・アキノノゲシなどが優占している場合が多かった。

雑草はその性質に応じて、それぞれの適地に住み分けて生育している。耕地にはいわゆる畑雑草が、また、路傍にはオオバコ・チカラシバのような踏まれても平気で丈夫な種類の雑草類が生育している。同様に、休耕地にも独自の雑草群落がみられる。第1表は裸地にした場合、最初にどのような雑草が優占し、雑草群落がどのように変わってゆくかをみた調査事例の幾つかである。

第1表 休耕地における優占種の遷移

先駆雑草の優占種		次ぎの優占種	多年生草本期の優占種
①	ブタクサ、エノコログサ、メヒシバ。	ヒメジョーン、オオアレチノギク、アレチマツヨイグサ。	ススキ、チガヤ。
②	メヒシバ。	ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギク。	ススキ。
③	ハルタデ、シロザ。	ヒメジョーン、ヒメムカシヨモギ、アレチマツヨイグサ。	ススキ。
④	イヌタデ、メヒシバ。	ヒメジョーン、ヒメムカシヨモギ。	

注1) 地域と研究者

① 千葉、沼田ら(昭30)、② 埼玉、中山ら(未発表)、

③ 長野、林(昭42)、④ 北海道、桑原(昭39)。

2) 林、沼田(昭43)より抜粋、作成。

脚注1) 新海 昭：稲ウイルス病の虫媒伝染に関する研究，農技研報C 14，1～122，1962。

裸地条件に最初に群落をつくるものを先駆種と呼んでいる。先駆種は裸地のような温度、土壌水分の1日の変化が大きい不良条件でも芽生えがよいことが必要で、一般には種子が重いあるいは根の発達がよい特性があり、また、冬季の低温による悪影響が少なく、好適な条件で種子が一斉に発芽する特性が必要といわれる。しかし、繁殖源が強く左右する。第1表に示した調査事例が違うのもそのためであろう。畑を休耕にした場合は、その畑の優占種が種子を多量におとしているため、それが優占するのが一般である。第1表にみられるメヒシバ・ハルタデ・イヌタデ・シロザなどはそれを示すものである。北本市における私達の調査では、ほとんどメヒシバであった。

これら先駆種の群落はほとんど1年で、2年目にはオオアレチノギク・ヒメジョーン・ヒメムカシヨモギなどの越年生あるいは多年生のセイタカアワダチソウに圧倒されてしまう。これらのキク科雑草は、種子が冠毛をもち、軽く、遠くまで飛散でき、種子生産量もきわめて多い。秋に発芽し、タンポポのような根出葉をつけたロゼット型の幼植物で、耐陰性が強いので、先駆種の暗い群落内で越冬する。春先きになると直立茎を出して高さ1～2mに達して、先駆種の1年草を圧する。なお、越年生のキク科雑草の種子の飛散、定着時期は9月中・下旬（関東地方）であるので、その時期以前に休耕に入った場合、たとえば夏野菜、トムロコシ跡地などでは、その年から優占し、先駆種となる。

これらの越年生のキク科雑草の群落は2～3年にとどまり、3～4年からススキ・チガヤなどのイネ科多年生雑草に遷移する。私達が試験している休耕畑では、3年目からハンノキ・ヌルデ・ハギ・アカマツなども生え始めている。



写真1 休耕畑3年目の雑草発生（その1）



写真2 休耕畑3年目の雑草発生（その2）

ススキの侵入がみられ、ハンノキも発生している。越年生キク科雑草も残り、これらの雑草の株もとにはメヒシバなど1年生畑雑草が発生している。

以上が休耕畑における雑草群落の遷移である。越年生のキク科雑草が優占している場合にも先駆種のメヒシバなどが残り、また、ススキなど多年生雑草に移行している条件でもキク科雑草は残っているが、休耕後3～4年までは遷移が比較的にはっきりしているので、草種の優占度から、休耕後の年数について、およそ見当をつけることができる。しかし、その後については、観察だけでは休耕年数を決めることは難しく、また、土地条件によって、草種が違い、一様でない。私達が北本市で調査した休耕畑480筆のうち、3分の2は前述したメヒシバ→ヒメムカシヨモギ（オオアレチノギク、ヒメジョーン）→ススキの遷移であったが、多年草発生条件では、

アズマネザサ・チガヤ・クズ・ヤブガラシ・カナムグラ・アキノノゲシなどが優占している場合もあった。これらのうち、クズ・ヤブガラシは、樹園地あるいは山沿い畑を休耕した場合に多く、また、カナムグラ・アキノノゲシは両者が組合わさった場合が多く、とくに低湿地に多かった。アズマネザサ・チガヤについては、はっきりしなかった。なお、酸度との関連もあるだろうと調査したが、休耕畑とくに年数の経過しているものは酸度が低いものの、草種、群落との関係については、はっきりいえるほどのデータは得られなかった、しかし、新潟大学の菅原先生の調査から推測できるように、草種と酸度との間には強い関連があることはいえる。

かって、畑作では“イモ畑”“陸稲畑”という言葉がよく使われた。排水のよい高台のサツマイモはつるばけがなく、味がよく、一方、陸稲は低地の方が干ばつ害が少なく適地であることを示すもので、その土地条件を表わすものとして使われたわけである。私達も休耕畑の雑草を調査して、その草種が土地条件を強く反映し、地力指標として利用できることを学んだ。

3. 休耕畑の復元と雑草対策

休耕畑の復元あるいは雑草対策についての報告はほとんど見ない。私達の休耕畑の復元は来年予定しているので、これから述べることは推測の域を出ない。むしろ、その経験のある方はご教示願いたい。

休耕 2～3 年目の越年生キク科雑草の優占している畑では、復元は耕うん機でも容易である。ススキなど多年生雑草が侵入しても、株単位の程度の段階では、株抜きあるいは除草剤のスポット処理で対応、後は耕うん機で復元できる。キク科の越年生雑草が優占したり、ススキなど

が入りつつある段階でも、それら雑草の株元には結構メヒシバ・タデ類などが発生し、種子をおとしている。しかも、種子の寿命はメヒシバは 2 年前後と短いものの、タデ類・シロザなどは長い。したがって、前述した休耕 2～3 年後に復元した畑では、メヒシバ・タデ類・シロザなどが発生する。したがって、トラクタのあるところでは、表面に多い種子を、深部にもってゆくようプラウによる反転耕が望ましく、また、ロータリ利用の場合には秋早めに復元、耕起して、年内発生を促すことも一方法である。15℃以上であれば発生し、大きくならないうちに冬の寒さで夭折するからである。

復元の場合の最初の導入作物としては、麦が最も適している。冬作物であるので、除草で困ることはない。冬季に復元して、夏作からとなると雑草抑圧力が強い大豆が適している。10 a 当り 1～2 万本の密植が収量向上のためにも雑草抑圧の面からも望ましい。十分に石灰を施す必要がある。また、陸稲は雑草抑圧力が強い作物ではないが、酸性に強く、復元したような新しい畑ではきわめてよい生育を示す。しかも、土壌処理剤、茎葉処理剤を適用できるので、管理を上手にすれば十分に雑草を抑えることができる。

さらに、酸性に強く、特異な生態型を示すソバの導入もよい。関東地方以南では秋ソバが普通であり、関東でいえば 8 月下旬が播種期である。したがって、それまでに雑草を発生させ、耕うんなどでたたけるからである。また、秋ソバは春まくと、開花が遅れ、栄養生長ばかりとなり、その生長の速さ、繁茂度は目を見張るものがある。私達は、この生態型を利用して、雑草多発畑の清潔化をはかっている。第 2 表がそのデータの一部である。すなわち、5 月 29 日播

第2表 秋ソバ春播きの生育

	播種 30 日後		播種 40 日後	
	草 丈	葉面積指数	草 丈	葉面積指数
	cm	m ² /m ² field	cm	m ² /m ² field
ソバ散播	72.5	4.41	135.5	5.22
ソバ条播	66.2	4.22	127.9	7.87
大豆条播	20.9	0.36	41.1	1.87
メヒシバ	6.0			
タ デ	10.5			

注) 5月29日播種

種において、その葉面積指数は播種1か月後で4.2～4.4（同一播種期の大豆は0.4）、45日後では5.2～7.9（大豆は1.9）である。この試験では化成肥料（3・10・10）を10a当り100kg施している。なお、この生育では、開花はしても種子生産は期待できない。家畜農家とつながりのあるところでは、飼料として利用するとよい。ヨーロッパでは、この方法で、ソバを飼料作物として利用しているとの報告もある。普通のところでは、刈ってから、すき込む。放っておくと、降霜で変色、枯死して、水分含有率が10%近くまで低下するので、すき込むのにも便利であり、また火をつければ簡単に燃える。播種法は条播でも散播でもよいが、条播して、1回中耕すれば雑草抑圧は完全である。しかし、ソバにはヨトウムシが集まりやすく、乾燥条件

では大発生することもあるので、その作付にあたっては周囲の野菜畑への配慮が十分必要である。

以上は休耕2～4年の畑の復元について示したものであるが、5～6年、それ以上に長い休耕畑もある。実際に求められているのは、これらの休耕畑の管理あるいは復元後の対策である。多年生雑草が優占しているので、管理も難しく、復元の場合にも、簡単な方法では多年生雑草が再発生する。いずれにしても、除草剤の適用が必要である。

ススキなどにはテトラピオンの出芽前～出芽初期におけるスポット処理が、また、ススキ以外のイネ科雑草にはDPA（3kg/10a以上）が有効といわれる。また、広葉の多年生雑草には2.4PAが効果的とされている。しかし、休耕畑の管理あるいは復元対策との関連で検討されているものはない。また、グリフォセートは効果的と推定できるが、これまた、データは少ない。これらの除草剤については、私も知見がないので、記述できないが、休耕畑の問題と関連して、今後、検討を必要とする薬剤であることは間違いない。研究の進展を望みたい。

野菜の除草剤について

農林省野菜試験場久留米支場長 栗山尚志

野菜の除草剤は、登録条件が厳しくなったのに伴い、最近では新規登録が中断されたかっこうであるが、目下申請中のものが多数あるやに聞く。各種試験が重ねられた結果、野菜に利用

可能な除草剤はかなりの数にのぼっているの、それらについて今後の利用の便に供するため、未登録薬剤を含めて、実用化可と判定済のものはこれを加えて一覧表にまとめ、以下に示すこ

とした。

1975年12月までに野菜用として登録済の除草剤、並びに1976年6月までに、同じく野菜用として実用化可と判定されているが薬剤が未登録、若しくは、薬剤は他作物を対象に登録済であっても野菜用には使用基準が未登録の薬剤を、一括して第1表に示した。同表によれば、31種の野菜用として登録されている薬剤数は35種類に達し、他作物を対象に登録されている薬剤で野菜用として未登録のもの19種類、全く登録されていない薬剤は17種類である。又、野菜の種類別に登録若しくは実用化可と判定されている薬剤数を調べると、第2表のようである。特に、我が国の作付面積の多い野菜で登録除草剤の少ないか、全くないものとして、サトイモ、ネギ、キュウリ、ナス、ゴボウ、カボチャ、エンドウなどがあり、これらのうちネギ、キュウリ、ナス、ゴボウについては、実用化可

と判定されながら未登録の例がかなり多いので、すみやかな登録を期待したい。また、既登録数の多い野菜であっても、作型及び処理時期の組み合わせを考慮すると、すべての場面で満足できるまでには至っていないので、これらについても登録の促進、新薬剤の開発がなおいっそう望まれる。

次に、第1表に示した各薬剤の野菜に対する使用基準を第3表に示した。同表の利用にあたって注意を要することは、*印のないものについては、実用化可の判定はされているものの未登録であるので、普及指導を行ってはならないこと、並びに処理薬量については、使用基準の範囲で、使用する地域ごとに、同地域における最適処理量を定めるための予備試験を行う必要のあることである。というのは、例えば使用基準量の範囲内であっても、処理薬量の多い場合、土壌によって薬害の見られることがあったり、あるいは、低薬量では、その地域の草種によるなどして、除草効果が実用上不十分な場合もあり得るからである。なお環境汚染防止が叫ばれている昨今であるので、なるべく低薬量をとることが望まれる。

第4表には、未登録薬剤について、その薬剤特性を示した。

第1表 作物別・除草剤別使用基準登録の有無一覧

作物名 薬剤名	キ ャ ベ ツ	ハ ク サイ	ホ ウ レン ソ ウ	レ ミ ッ ス	パ セ リ ー	セ ル リ ー	シ ュ ン ギ ク	ア ス パ ラ ガ ス	ネ ギ	タ マ ネ ギ	ニ ン ジ ン	ラ ッ キ ョ ウ	ト マ ト	ナ イ マ ン	ピ ー マ ン	キ ュ ウ リ	ス イ ロ ン	メ ロ ン	イ チ ゴ	ダ イ コ ン	カ ブ	ニ ン ジ ン	ゴ ボ ウ	ヤ マ ノ イ モ	サ ト イ モ	シ ョ ウ ガ	イ ン ゲ ン マ メ	食 用 ユ リ
*NPA液剤																	○	○	○									
*DCPA乳剤				○																								
*CMMP乳剤					○	○							○							○		○						
*ジフェナミド水和剤													△	△	△	○			○									
*アラクロール乳剤	○	○	○	△									○						○	○								○
*NIP粒剤	△	○												△						○		○						
*NIP水和剤	△	○																		○		○						
*NIP乳剤	○	○		△	○					△	○			△			○		○	○	○	○	○	○				
*CNP乳剤	○	○																		○		○	○					

作物名 薬剤名	キャベツ	ハクサイ	ホウレンソウ	レタ	ミツバ	パセリ	セリ	シシトウ	アスパラガス	ネギ	タネギ	ニンニク	ラッキョウ	トウモロコシ	ピーマン	トウガラシ	キュウリ	スイカ	メロン	イチゴ	ダイコン	カブ	ニンジン	ゴボウ	ヤマノイモ	サトイモ	ショウガ	インゲンマメ	食用ユリ
* M C C粒剤											○																		
* M C C水和剤																													△
* I P C乳剤	○	○	○	○					○		○									○			○	○				○	
* I P C・DCMU水和剤											○																		
* DCMU水和剤									○		○																		
* リニュロン水和剤						○	○	○	○	△	○	△											○		○	○	○		○
* C A T水和剤	○	○	○								○									○	○					○			△
* プロバジン系水和剤																								○					
* プロメトリン水和剤	△									△	○											○						○	
* アトラジン水和剤									○																				
* アジプトリン水和剤	○																												
* クレダジン水和剤															○	○					○								
* レナシル水和剤			○																		△								
* トリフルラリン粒剤	△	○								○					△				○	△				△	△	△	△	△	△
* トリフルラリン乳剤	○	○	○	○						△	○				○	○		○	△	○	△			△	△	△	○	△	
* ベスロジン乳剤				○																									
* パラコート液剤	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
* SAP・プロメトリン乳剤	○	○		○	○			○		○	○				○	○		○	○		○	○	○						
* ニトラリン水和剤	○														△					△									
* ニトラリン粒剤	△																												
* 石油除草剤					○																			○					
* シアン酸塩水溶剤	○	○	○	○		○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
* E P T C粒剤																													○
* E P T C乳剤																													○
* I P C・リニュロン水和剤																													○
* D N B P液剤																													○
* D N B P A水和剤																													○
* クレダジン粒剤																					△								
* ジクワット液剤	△	△													△														
* N I P・プロピザミド水和剤	△	△																			△								
* フェンメディウム乳剤																					△								
* プロメトリン・アラクロール乳剤	△																												
* I P C・アラクロール乳剤	△		△																		△								
* C A T・I P C水和剤	△										△																		
* アシュラム液剤			△																										
* ベンチオカーブ乳剤				△																									
* プロピザミド水和剤				△																									
* バーナレート粒剤				△											△														
* アシュラム・アイオキシニル液剤									△																				
* ビオメート粉剤										△	△																		
* P A C・I P C水和剤											△																		
* I P C・DCMU水和剤											△																		
* アイオキシニル乳剤											△																		
* I P C水和剤											△																		
* P C P・リニュロン水和剤														△															○

作物名 薬 剤 名	キャベツ	ホウレンソウ	レタス	ミツバ	パセリー	セルリ	シュンギク	アスパラガス	ネギ	タマネギ	ニラ	ラッキョウ	ニンニク	トマト	ナス	ピーマン	トウガラシ	キュウリ	スイカ	メロン	イチゴ	ダイコン	カブ	ニンジン	ゴボウ	ヤマノイモ	サトイモ	ショウガ	インゲンマメ	食用ユリ
ペノキサリン乳剤	△		△							△										△			△							
S-28乳剤	△		△							△				△					△	△				△						
NTN-80粒剤																								△						
NTN-80水和剤	△		△							△								△	△		△			△						
NTN-80乳剤																		△						△						
TCTP水和剤	△		△						△	△		△						△						△						
U-67水和剤	△													△								△								
U-67粒剤	△													△										△						
SL-55水和剤	△									△																				
ナプロバミド水和剤	△													△	△															
メトリブジン水和剤							△																							
パラコート起泡剤			△																											
NHKS粒剤			△							△																				
ベスタック乳剤					△				△	△				△		△					△				△	△				
NK-049水和剤										△																				
NTN-80トリブニール水和剤										△																				
トリブニール水和剤										△																				

* 登録薬剤（無印は未登録薬剤）

○ 使用規準が登録済のもの

△ 使用規準が未登録のもの（実用化可と判定されている）

△ 使用規準に登録済及び未登録ともにあるもの

第2表 野菜用除草剤の野菜の種類別登録・未登録薬剤数

野菜の種類	野菜用として登録されているもの	実用化可と判定されているがその使用基準が未登録のもの		合計	野菜の種類	野菜用として登録されているもの	実用化可と判定されているがその使用基準が未登録のもの		合計
		他作物に対して若しくは他の利用方法については登録のあるもの	全く登録されていないもの				他作物に対して若しくは他の利用方法については登録のあるもの	全く登録されていないもの	
キャベツ	14	10	8	32	ピーマン	3	1	1	5
ハクサイ	12	0	0	12	トウガラシ	3	0	0	3
ホウレンソウ	7	2	0	9	キュウリ	4	1	3	8
レタス	8	5	6	19	スイカ	7	1	3	8
ミツバ	6	0	0	6	メロン	3	3	0	6
パセリー	4	0	1	5	イチゴ	9	4	6	19
セルリー	3	0	0	3	ダイコン	10	0	0	10
シュンギク	1	0	0	1	カブ	4	0	0	4
アスパラガス	6	1	1	8	ニンジン	14	2	7	23
ネギ	4	5	2	11	ゴボウ	5	1	1	7
タマネギ	12	6	10	28	ヤマノイモ	3	2	0	5
ニラ	0	1	0	1	サトイモ	5	0	0	5
ラッキョウ	0	0	1	1	ショウガ	0	2	0	2
ニンニク	0	1	0	1	インゲンマメ	11	0	0	11
トマト	7	6	5	18	食用ユリ	0	3	0	3
ナス	5	2	1	8					

第3表 野菜用除草剤と使用基準

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理量/a	備考
キャベツ	*	アラクロール	ラツソー	乳		土壌	定植直後	10~20 ^{ml}	イネ科優占は場.
	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		土壌	定植前	20~40 ^{ml}	
	*					同上	定植後	20~40 ^{ml}	
	*					土壌混和	は種前	15~30 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒	春~初夏まき	土壌	定植前	400~600 ^g	
	*				同上	土壌混和	定植前	300~500 ^g	
	*	NIP	ニップ	水和	春まき直はん	土壌	は種直後	40~60 ^g	
	*				春まき移植	同上	定植4~8日後	40~60 ^g	
	*	同上	同上	乳		同上	は種直後	80~100 ^{ml}	
	*					同上	移植前	80~100 ^{ml}	
	*					同上	活着後	80~100 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒	春まき直はん	同上	は種直後	600~750 ^g	
	*				春まき移植	同上	定植後	600~750 ^g	雑草発生前処理.
	*				秋まき移植	同上	定植直後~4日後	400~600 ^g	同上
	*				初夏まき	同上	は種後	600~750 ^g	
	*				夏まき	同上	定植直後~4日後	400~600 ^g	株間処理.
	*	CNP	MO	乳		同上	定植後	125~150 ^{ml}	うね間処理.
	*	IPC	クロロIPC	乳		同上	定植後	15~30 ^{ml}	
	*	CAT	シマジン	水和		同上	定植前7日	10 ^g	
	*					同上	定植後	10 ^g	
	*	アジプロトリン	メゾラニール	水和		土壌兼茎葉	定植直後から20日間	30~40 ^g	雑草発生前~2,3葉期.
	*	SPA・プロメトリン	エス	乳		土壌	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*					同上	定植活着後	60 ^{ml}	
	*	ニトラリン	プラナビアン	水和		同上	定植直後	20~30 ^g	雑草発生前処理.
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	うね間処理.
	*					同上	は種前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15~30 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
キャベツ (続)	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼 土壌	生育期	150~450g	うね間処理。 雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450g	雑草幼小期。
	*					同上	植付前	150~450g	同上
	*					同上	収穫後	150~450g	同上
		ペノキサリン (ANK-553)		乳	春~初夏 まき	土壌	定植後	20~60 ^{ml}	
					夏まき	同上	定植前	20~40 ^{ml}	
		(S-28)	クレマート	乳	夏まき	同上	定植前	20~40 ^{ml}	
		(NTN-80)	トクノールM	水和	(初夏)まき	同上	定植後	25~50g	うね間株間 処理。
		TCTP (DAC-893)	ダクター	水和	春~夏 まき	同上	定植後	110~150g	
		(U-67)		水和	春~夏 まき	同上	定植活着 後	25~35g	うね間・ 株間処理。
		同上		粒	春~夏 まき	同上	定植活着 後	300~400g	うね間・ 株間処理。
		ジクワット	レグロックス	液	春~夏 まき	茎葉	定植活着 後	20~40 ^{ml}	うね間・株 間処理。雑 草5~6葉 期まで。
		プロメトリン ・アラクロール		乳	春~夏 まき	土壌	定植直後	20~30 ^{ml}	うね間株間。
						同上	定植活着 後	20~30 ^{ml}	うね間株間。
		(SL-55)		水和	夏まき	土壌	定植前	13~25g	
		ニトラリン	プラナビアン	粒	夏まき	同上	定植後	300~500g	
		ナプロパミド (R-7465)	テブリノール	水和	夏まき	同上	定植後	40~60g	
		IPC・アラク ロール		乳	(寒地)	同上	定植活着 後	20~25 ^{ml}	うね間・株 間処理。雑 草発生前全 期間。
		CAT・IPC		水和	春~初夏 まき	同上	定植直後	25~37.5g	うね間・株 間処理。
					同上	同上	定植活着 後	25~37.5g	同上
		RH-315T		水和	春~初夏 まき	同上	定植活着 後	30~50g	株間処理。
		プロメトリン	ゲザガード	水和	春~夏 まき	同上	定植活着 後	10~20g	うね間・株 間処理。
					同上	同上	活着後及 び生育期	10~15g	うね間株間 反復処理。
ハクサイ	*	アラクロール	ラッソー	乳		土壌	は種後	10~15 ^{ml}	イネ科優占 は場。
	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		同上	は種後	20~40 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理葉量/a	備考
ハクサイ (続)	*	トリフルラリン	トレファノサイド			土壌	定植前	20~30 ^{ml}	
	*					同上	定植後	20~30 ^{ml}	
	*					土壌混和	定植前	15~30 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒	春まき	土壌	定植前	400~600 ^g	
	*				春まき	土壌混和	定植前	300~500 ^g	
	*	IPC	クロロIPC	乳		土壌	定植1か月以後	30~50 ^{ml}	
	*	NIP	ニップ	水和	春まき	同上	は種直後	40~60 ^g	
	*				同上	同上	定植後4~8日	40~60 ^g	
	*	NIP	ニップ	乳		土壌	は種直後	80~100 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒	秋まき	同上	は種直後	400~600 ^g	
	*	CNP	MO	乳		同上	は種後	125~150 ^{ml}	
	*	CAT		水和		同上	は種前10日以内	10 ^g	
	*					同上	は種直後	5 ^g	
	*	SAP・プロメトリン	エス			同上	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*	バラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	うね間処理.
	*					同上	は前前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理. 雑草幼小期.
	*					同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期.
	*					同上	植付前	150~450 ^g	同上
	*					同上	収穫後	150~450 ^g	同上
		ジクワット	レグロックス	液	春~夏まき	茎葉	生育期	20~40 ^{ml}	うね間・株間処理. 雑草5~6葉期まで.
		RH-315T		水和		土壌	は種後	30~40 ^g	
ホウレンソウ		アラクロール	ラツソー	乳		土壌	は種後	10~15 ^{ml}	イネ科優占は場.
		IPC	クロロIPC	乳		同上	は種後	10~15 ^{ml}	
						同上	催芽種子は種後	15~20 ^{ml}	
		CAT	シマジソ	水和		土壌	は種後	5~15 ^g	
		レナシル	レンザー	水和		同上	は種直後	10~15 ^g	
		アシュラム	アージラン	液	秋まき	同上	は種後~子葉展開期	60~80 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理量/a	備考
ホウレンソウ (続)		アシュラム	アーザラン		春～初夏 まき	土壌	は種後～子 葉展開期	80～100 ^{ml}	
					同上	同上	同上 芽出しまき	80 ^{ml}	
		I P C ・ アラクロール		乳	(寒地)	同上	は種後	20 ^{ml}	覆土を厚目 とする。
	* * * *	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15～30 ^{ml}	うね間処理。
						同上	は種前	15～30 ^{ml}	
						同上	植付前	15～30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15～30 ^{ml}	
	* * * *	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉 兼 土壌	生育期	150～450 ^g	うね間処理。 雑草幼小期。
						同上	は種前	150～450 ^g	雑草幼小期。
						同上	植付前	150～450 ^g	同上
						同上	収穫後	150～450 ^g	同上
レタス	* *	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		土壌	定植前	20～30 ^{ml}	
						同上	定植直後	20～30 ^{ml}	
	*	ベスロジン	バナフィン	乳		同上	定植後	80～150 ^{ml}	
	* * *	N I P	ニップ	乳		同上	は種直後	80～100 ^{ml}	
						同上	定植前	80～100 ^{ml}	
						同上	定植活着 後	80～100 ^{ml}	
					マルチ	同上	定植前マ ルチ前2日 以内	80～100 ^{ml}	
	*	S A P ・ プロメトリン	エス	乳		同上	は種直後	50～60 ^{ml}	
	*	D C P A	スタム	乳		茎葉 兼 土壌	生育期	50～80 ^{ml}	結球種。雑 草2～3葉 期。レタス の葉にかか らぬよう散 布する。
	*	I P C	クロロ I P C	乳	露地	土壌	定植活着 後	30～50 ^{ml}	株間・うね 間処理。レ タスの葉に かからぬよ う散布する。
	* * * *	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15～30 ^{ml}	うね間処理。
						同上	は種前	15～30 ^{ml}	
						同上	植付前	15～30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15～30 ^{ml}	
	* *	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉 兼 土壌	生育期	150～450 ^g	うね間処理。 雑草幼小期。
						同上	は種前	150～450 ^g	雑草幼小期。

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
レタス(続)	*	シアン酸塩	シアノン			茎葉兼 土壌	植付前	150~450g	雑草幼小期.
						同上	収穫後	150~450g	同上
		ペノキサリン (ANK-553)		乳	春まき トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	30~60 ml	
					秋まき トンネル マルチ	土壌	定植前・ マルチ前	20~40 ml	
		(S-28)	クレマート	乳	秋まき 露地	同上	定植前	20~40 ml	
					秋まき トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	20~50 ml	
		(NTN-80)	トクノールM	乳	春まき 露地マルチ	同上	定植前・ マルチ前	60~80 ml	
		(NTN-80)	トクノール	乳	トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	30~50 ml	
		同上	同上	水和	初夏まき	同上	定植後	25~35 g	
					露地	同上	定植前	25~50 g	
		TCTP (DAC-893)	ダクター	水和	秋まき トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	110~150g	
					春まき露 地マルチ	同上	定植前・ マルチ前	110~150g	
		パラコート+ 起泡剤				茎葉	生育期	パラコート 30 ml 起泡剤0.2%	うね間処理.
		ベンチオカーブ (B-3015)	サターン	乳	春まき露 地マルチ	土壌	定植前・ マルチ前	60~100 ml	
					秋まき トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	100 ml	
		アラクロール	ラッソー	乳	秋まき トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	10~20 ml	
		(NHKS)		粉	秋まき トンネル マルチ	土壌 混和	定植7~ 10日前	600~800g	
					露地	同上	定植7~ 10日前	600~800g	
		プロピザミド (RH-315)	カーブ	水和	秋まき露 地マルチ	土壌	定植前・ マルチ前	10~30 g	キク科雑草優 占地を除く.
					秋まき トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	15~30 g	同上
					春まき トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	15~30 g	同上
					春まき露 地	同上	定植後	20~30 g	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/畓	備考
レタス(続)		プロピザミド	カーブ		秋まき トンネル マルチ	土壌	は種後	20~30g	
		バーナレート	バーナム	粒	秋まき トンネル マルチ	同上	定植前	300~400g	
						土壌 混和	定植前	300~400g	
ミツバ	*	CMMP	ダクロン	乳	(本畑)	茎葉 兼 土壌	定植活着 後	50~100 ^{ml} 希釈水量 10 ^l	雑草草丈 3cmまで.
	*	リニュロン	アフアロン ロロックス	水和		土壌	は種直後	10~15g	
	*	NIP	ニップ	乳		同上	は種後	80 ^{ml}	
						同上	生育期	100 ^{ml}	
	*	SAP・ プロメトリン	エス	乳		同上	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*	石油系	シルバゾール	油状		茎葉	本葉2~ 3葉期	4~6 ^l	原液散布.
	*	パラコート	グラモキソン	液		同上	生育期	15~30 ^{ml}	
						同上	は種前	15~30 ^{ml}	
						同上	植付前	15~30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
パセリー	*	CMMP	ダクロン	乳		茎葉	は種後	50~100 ^{ml} (希釈水量 10 ^l)	雑草草丈 3cm位まで.
	*					同上	発芽後	50~100 ^{ml} (希釈水量 10 ^l)	同上
						同上	移植活着 後	50~100 ^{ml} (希釈水量 10 ^l)	同上
	*	リニュロン	アフアロン ロロックス	水和		土壌	は種直後	10~20g	
	*	パラコート	グラモキソン	液		同上	生育期	15~30 ^{ml}	
						同上	は種前	15~30 ^{ml}	
						同上	植付前	15~30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
		ベスタック (DC-55)		乳		同上	は種後	100~200 ^{ml}	
セルリー	*	リニュロン	アフアロン ロロックス	水和		土壌	定植活着 後	10~15g	うね間処理.
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	同上
						同上	は種前	15~30 ^{ml}	
						同上	植付前	15~30 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
セルリー (続)		パラコート	グラモキソン	液		茎葉	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼 土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理。 雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期。
	*					同上	植付前	150~450 ^g	同上
	*					同上	収穫後	150~450 ^g	同上
シュンギク	*	SAP・ プロメトリン	エス	乳		土壌	は種直後	50~60 ^{ml}	
アスパラガス	*	DCMU	ダイロン	水和		土壌	培土後 萌芽前	10 ^g	砂質性及び 透水性土壌 は避ける。
	*		カーメックスD	水和		同上	培土後	10 ^g	同上
	*					同上	培土くず し後	10 ^g	同上
	*					同上	萌芽期前 後	10 ^g	同上
	*	リニュロン	アフアロン ロックス		(苗床)	同上	は種直後 及び発芽 1か月以降	10~20 ^g	
	*				本畑 ホワイト	同上	培土後及 び培土く ずし後	10~20 ^g	
	*				本畑 グリーン	同上	雑草発生 前~発芽 後2~3回	10~20 ^g	
	*				同上	同上	春萌芽期 及び夏期 ~収穫期 年2回	10~20 ^g	
	*	アトラジン	ゲザプリム		ホワイト	同上	培土後及 び培土く ずし後	10~20 ^g	
		IPC	CIPC		(苗床)	同上	は種直後	20~30 ^{ml}	
					(本畑)	同上	培土後雑 草発生前	25~30 ^{ml}	20℃以下の 時期に散布。
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	うね間処理。
	*					同上	は種前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼 土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理。 雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期。
	*					同上	植付前	150~450 ^g	同上
	*					同上	収穫後	150~450 ^g	同上

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
アスパラガス (続)		メトリブジン (NTN-70)	センコール	水和	グリーン	土壌 兼 茎葉	雑草発生 前～同4 ・5葉期	10～15g	2回反復可.
					ホワイト	同上	雑草発生 前～同4 ・5葉期	10～15g	同 上
		アシュラム	アージラン	液	グリーン	茎葉	雑草2・ 3葉期	100～200 ^{ml}	同 上
					ホワイト	同上	雑草2・ 3葉期	100～200 ^{ml}	同 上
ネギ	*	SAP・ プロメトリン	エス	乳		土壌	は種直後	50～60 ^{ml}	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15～30 ^{ml}	うね間処理.
	*					同上	は種前	15～30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15～30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15～30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉 兼 土壌	生育期	150～450 ^g	うね間処理. 雑草幼小期.
	*					同上	は種前	150～450 ^g	雑草幼小期.
	*					同上	植付前	150～450 ^g	同 上
	*					同上	収穫後	150～450 ^g	同 上
		TCTP (DAC-893)	ダクター	水和	春まき露 地苗床	土壌	は種後	110～150 ^g	
					春まき トンネル 苗床	同上	は種後	100～130 ^g	
					春まきハ ウス苗床	同上	は種後	100～130 ^g	
		トリフルラリン	トレファノサイド	乳	春まき	同上	定植後	20～30 ^{ml}	
		リニュロン	ロックス アファロン	水和	秋まき	同上	定植活着 後	10～15 ^g	うね間処理.
					春まき	同上	定植活着 後	10～15 ^g	
		ベスタック (DC-55)		乳	秋まき	同上	定植後	100～200 ^{ml}	
					秋まき	同上	定植活着 後	100～200 ^{ml}	
					秋まき	同上	定植活着 後及び生 育期	150～200 ^{ml}	反復処理.
		NIP	ニップ	乳	春まき	同上	定植後	60～80 ^{ml}	
		ZM	バイオメート	粉	9～10月 まき苗床	土壌 混和	は種2週 間前	2～3 ^{kg}	
					春まき苗 床	同上	は種2週 間前	1.5～3.0 ^{kg}	
タマネギ	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		土壌	定植後	20～40 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
タマネギ (続)	*	トリフルラリン	トレフェノサイド			土壌混和	定植前	15~30 ml	
	*	同上	同上	粒		土壌	定植後	400~500g	
	*					同上	生育期	400~500g	
	*					土壌混和	定植前	300~400g	
	*	DCMU	ダイロン, カーメックス	水和		土壌	定植1か月後	2g	砂質性及び透水性土壌は避ける。
	*					同上	定植2~3か月後	3~6g	同上
	*	リニュロン	アフアロン, ロロックス	水和		土壌	定植活着後	10~20g	
	*	IPC	クロロIPC	乳		同上	定植活着後	20~30 ml	
	*					同上	中耕施肥後	20~30 ml	
		同上	同上	水和	(寒地)	同上	定植活着後	30~35g	
	*	IPC・DCMU	ハービサン	水和	直はん	同上	本葉2~3葉期以降	15~20g	
	*					同上	定植活着後	15~20g	
	*	MCC	スエップ	粒		同上	定植活着後及び春季生育期	300~400g	反復処理。
	*	NIP	ニップ	乳		同上	は種直後	80 ml	
	*					同上	定植活着後	80 ml	
	*	CAT	シマジソ	水和		同上	定植後	5~10g	
	*	SAP・プロメトリン	エス	乳		同上	は種直後	50~60 ml	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ml	うね間処理。
	*					同上	は種前	15~30 ml	
	*					同上	植付前	15~30 ml	
	*					同上	収穫後	15~30 ml	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450g	うね間処理。雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450g	雑草幼小期。
	*					同上	植付前	150~450g	同上
	*					同上	収穫後	150~450g	同上
		ペノキサリン (ANK-553)		乳	[寒地・寒冷地]	同上	定植活着後	30~60 ml	
		(S-28)	クレマート	乳	秋まき	土壌	定植後及び春季雑草発生前	20~40 ml	反復うね間。

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
タマネギ (続)		(S-28)	クレマート		(寒地)	土壌	定植活着後	20~40 ^{ml}	雑草発生始期まで。
		TCTP (DAC-893)	ダクタール	水和	寒地直は ん	同上	は種直後	150~200g	
					苗床	同上	は種後	80~130g	
		(NTN-80)	トクノール			同上	定植後及び 春季生育期	定植後30~ 50g 春季生育期 40g	反復処理。
		(NK-049)		水和		同上	定植活着後 及び春季生育期	定植活着後 80g 生育期80~ 100g	反復処理。
		(SL-55)		水和		同上	定植後	10~15g	
		IPC・DCMU (HSW-493)	ハービサン	水和	(寒地)	同上	定植活着後	40~60g	雑草発生始期まで。
		(NTN-80 + Tribunil)		水和		同上	定植後 + 春季生育期	定植後 NTN -80 40g Tribunil 30~40g	体系処理。
		CAT・CIPC		水和		同上	定植活着後	20~30g	うね間処理。
						同上	春季	25~37.5g	うね間処理。
					(寒地)	同上	定植活着後	25~35g	
		プロメトリン	ゲザガード	水和		同上	定植活着後	15~20g	うね間処理。
		Tribunil		水和	(寒地)	茎葉	生育期	20~40g	雑草2~3 葉期まで。
						土壌	定植活着後 及び春季生育期	活着後 20~ 40g 生育期 30g	反復処理。
		IPC・DCMU (HSW-7201)	ハービサン	水和	(寒地)	同上	定植活着後	30~40g	
ニラ		ベスタック (DC-55)		乳		同上	定植後及び 生育期	150~200 ^{ml}	反復処理。
		(NHKS)		粉	苗床	土壌 混和	は種2週 間前	300~400g	
		アイオキシニル	アクチノール	乳	秋まき	茎葉	早春期	10~20 ^{ml}	高温時はさける。雑草 特に広葉4 葉期まで。
		(ZM)	ビオメート	粉	苗床	土壌 混和	は種2週 間前	2~3 kg	
ラッキョウ		リニュロン	アフアロン、 ロックス		本畑	土壌	定植後及び 収穫後	10~15g	反復処理。
					株養成畑	同上	定植後	10~15g	
ラッキョウ		TCTP (DAC-893)	ダクタール		普通 5月どり	土壌	定植後及び 春季	150~250g	反復処理。

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
ニンニク		PCP・リニユロン (NC-301)		粒		土壌	植付後	100~150g	
トマト	*	CMMP	ダクロン	乳	直はん	茎葉	本葉8葉以降	50~100 ^{ml} (希釈水量10ℓ)	雑草発生初期.
	*	ジフェナミド	ダイミッド	水和		土壌	は種後	50~60g	
	*					同上	定植前	50~60g	
	*					同上	定植後	50~60g	
	*	同上	エナイド	水和	露地	同上	定植後	60~80g	
					ハウス	同上	定植後	60~80g	
	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		同上	定植前	20~40 ^{ml}	
						同上	定植後	20~40 ^{ml}	
						土壌混和	定植前	15~30 ^{ml}	
						同上	定植後	15~30 ^{ml}	
	*	クレダジン	クサキラー	水和		土壌	定植後	40~60g	雑草発生前 ~発生始期 処理.
	*	SAP・ プロメトリン	エス	乳		同上	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*	アラクロール	ラッソー	乳	ハウス	同上	定植後マルチ前	10~20 ^{ml}	株間処理.
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	うね間処理.
						同上	は種前	15~30 ^{ml}	
						同上	植付前	15~30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉 兼 土壌	生育期	150~450g	うね間処理. 雑草幼小期.
						同上	は種前	150~450g	雑草幼小期.
						同上	植付前	150~450g	同上
						同上	収穫後	150~450g	同上
		(S-28)	クレマート	乳	早熟露地	土壌	定植後	40~60 ^{ml}	うね間株間 処理.
					露地	土壌	定植活着 後	30~50 ^{ml}	同上
		(U-67)		水和	ハウス	同上	定植後	25~30g	
					露地	同上	定植前	30~40g	
					露地	同上	定植後	30~40g	
		(U-67)		粒	露地	同上	定植前	300~400g	
					露地	同上	定植後	300~400g	
					ハウス	同上	定植後	300~400g	
					寒露地	同上	定植前	300~400g	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
		(U-67)		粒	寒露地	土壌	定植後	300~400g	
				粒	ハウス	同上	定植後	400~600g	
		ジクワット	レグロックス	液		茎葉	生育期	20~40 ^{ml}	うね間株間処理.
		ニトラリン	プラナビアン	水和	加工用	土壌	定植後	10~20g	
					トンネルマルチ	同上	定植後	10~20g	
					トンネル無マルチ	同上	定植後	10~20g	
					トンネルマルチ	同上	定植前マルチ前	15~25g	
		トリフルラリン	トレファノサイド	粒	早熟地	土壌混和	定植前	300~400g	
					早熟地	土壌	定植前	400~500g	
		NIP	ニップ	乳	ハウスマルチ	同上	定植前	60~100 ^{ml}	
		(R-7465)		水和	露地	同上	定植活着後	40~60g	
					早熟地	同上	定植活着後	40~80g	
		ベスタック (DC-55)		乳	露地	同上	定植後	125~150 ^{ml}	株間処理.
					ハウス	同上	定植後	125~150 ^{ml}	同上
					ハウスマルチ	同上	定植後	100~200 ^{ml}	
		バーナレート	バーナム	粒	マルチ(トンネルなし)	土壌混和	定植前マルチ前	300~400g	
					マルチ(トンネルなし)	同上	定植後マルチ前	300~400g	
ナス	***	ジフェナミド	ダイミッド	水和		土壌	は種後	50~60g	
						同上	定植前	50~60g	
						同上	定植後	50~60g	
		同上	エナイド	水和		同上	定植後	40~60g	株間・うね間処理.
	*	SAP・プロメトリン	エス	乳		土壌	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		同上	定植前	20~30 ^{ml}	
	****	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	うね間処理.
						同上	は種前	15~30 ^{ml}	
						同上	植付前	15~30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15~30 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理量/a	備考
ナス(続)	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼 土壌	生育期	150~450g	うね間処理。 雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450g	雑草幼小期。
	*					同上	植付前	150~450g	同上
	*					同上	収穫後	150~450g	同上
		NIP	ニップ	粒		土壌	定植活着 後	40~60g	
		(R-7465)		水和	早熟地 露地	同上	定植活着 後	40~60g	
ピーマン	*	クレダジン	クサキラー	水和		土壌	定植後	40~60g	雑草発芽始 期まで。
	*	ジフェナミド	ダイミッド	水和	抑制	同上	は種後	30~50g	
	*				促成	同上	は種後	30~50g	
	*				半促成	同上	は種後	30~50g	
	*				抑制	同上	定植前	30~50g	
	*				促成	同上	定植前	30~50g	
	*				半促成	同上	定植前	30~50g	
	*				抑制	同上	定植後	30~50g	
	*				促成	同上	定植後	30~50g	
	*				半促成	同上	定植後	30~50g	
		同上	エナイド	水和	露地	同上	定植後	40~60g	株間・うね 間処理。
		ベスタック (DC-55)		乳	露地マルチ	同上	定植前	100~200ml	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30ml	
	*					同上	は種前	15~30ml	
	*					同上	植付前	15~30ml	
	*					同上	収穫後	15~30ml	
トウガラシ	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼 土壌	生育期	150~450g	うね間処理。 雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450g	雑草幼小期。
	*					同上	植付前	150~450g	同上
	*					同上	収穫後	150~450g	同上
	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		土壌	定植前	20~40ml	
	*					同上	定植後	20~40ml	
	*					土壌 混和	定植前	15~30ml	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼 土壌	生育期	150~450g	うね間処理。 雑草幼小期。

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理葉量/a	備考
トウガラシ (続)	***	シアン酸塩	シアノン	水溶		同上	は種前	150~450g	雑草幼小期.
						同上	植付前	150~450g	同上
						同上	収穫後	150~450g	同上
キュウリ	*	NPA	アラナップ	液		土壌	は種直後	120~170 ^{ml}	つるを伸ばし始める前までに作物にかからぬよう散布.
						同上	生育期	120~170 ^{ml}	
	*	SAP・プロメトリン	エス	乳		同上	は種直後	50~60 ^{ml}	
	***	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	
						同上	は種前	15~30 ^{ml}	
						同上	植付前	15~30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	***	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450g	うね間処理. 雑草幼小期.
						同上	は種前	150~450 ^{ml}	雑草幼小期.
						同上	植付前	150~450 ^{ml}	同上
						同上	収穫後	150~450 ^{ml}	同上
		(NTN-80)	トクノールM	乳		土壌	定植後	65~100 ^{ml}	うね間・株間処理.
		同上	同上	水和		同上	定植後	25~40g	うね間・株間処理.
		トリフルラリン	トレファノサイド	乳	露地直はん	同上	は種後	20~30 ^{ml}	覆土は厚目とする.
		TCTP (DC-893)	ダクター	水和	露地	同上	定植活着後	110~150g	うね間・株間処理.
スイカ		NPA	アラナップ	液		土壌	は種直後	120~170 ^{ml}	
						同上	生育期	120~170 ^{ml}	
	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		同上	生育期	20~40 ^{ml}	雑草発生前処理.
						トンネルマルチ	定植前マルチ前	20~40 ^{ml}	
						ホットキャップ	土壌定植キャップ後	20~40 ^{ml}	
							土壌混和	生育期	15~30 ^{ml}
	*	同上	同上	粒	トンネルマルチ	土壌	定植前・マルチ前	200~400g	
					トンネルマルチ	同上	生育期・トンネル除去前	400~600g	うね間処理.
*	NIP	ニップ	乳		同上	生育期	80~100 ^{ml}		

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理量/a	備考
スイカ(続)	*	N I P	ニップ	乳	トンネルマルチ	土壌	定植前	60~80 ^{ml}	
	*	S A P・プロメトリン	エス	乳		同上	生育期	80~100 ^{ml}	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理. 雑草幼小期.
	*					同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期.
	*					同上	植付前	150~450 ^g	同上
	*					同上	収穫後	150~450 ^g	同上
		(S-28)	クレマート	乳	露地マルチ	土壌	定植前・マルチ前	30~60 ^{ml}	
					トンネルマルチ	同上	定植前・マルチ前	40~60 ^{ml}	
		(NTN-80)	トクノールM	水和	露地マルチ	同上	定植前・マルチ前	30~50 ^{ml}	
		(U-67)		粒	トンネルマルチ	同上	定植前・マルチ前	200~250 ^g	
		アシュラム	アージラン	液	トンネルマルチ	同上	定植前・マルチ前	100~120 ^{ml}	
						同上	定植前・マルチ前 7日前	80~100 ^{ml}	
		MCC	スエップ	水溶	露地マルチ	同上	定植前・マルチ前	100~125 ^g	
メロン	*	NPA	アラナップ	液	露地	土壌	は種直後	120~170 ^{ml}	
	*				露地	同上	生育期	120~170 ^{ml}	
	*				被覆	同上	は種直後	170~200 ^{ml}	
	*				被覆	同上	生育期	170~200 ^{ml}	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理. 雑草幼小期.
	*					同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期.
	*					同上	植付前	150~450 ^g	同上
	*					同上	収穫後	150~450 ^g	同上

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
メロン(続)		トリフルラリン	トレファノサイド	乳	トンネルマルチ	土壌	定植5～7日前、マルチ前	15～20 ^{ml}	
					トンネルマルチ	同上	トンネル除去前	20 30 ^{ml}	うね間処理.
		同上	同上	粒	トンネルマルチ	同上	定植5～7日前、マルチ前	200～300 ^g	
					トンネルマルチ	同上	トンネル除去前	400～500 ^g	うね間処理.
		ニトラリン	プラナビアン	水和	トンネルマルチ	同上	定植前・マルチ前	15～20 ^g	
イチゴ	*	CMMP	ダクロン	乳	(親株床)	茎葉兼土壌	移植活着後	50～100 ^{ml}	
	*				(親株床)	同上	ビニルマルチ除去後	500～100 ^{ml}	
	*				(本畑)	同上	移植活着後	500～100 ^{ml}	
	*	ジフェナミド	ダイミッド	水和	(親株床)	土壌	移植後	30～60 ^g	
	*				(小苗床)	同上	移植後	30～60 ^g	
	*				(本畑)	同上	移植後～生育中	25～50 ^g	
	*	同上	エナイド	水和	(親株床)	同上	定植活着後	40～80 ^g	株間処理.
	*				施設マルチ	同上	定植後及びマルチ前	30～50 ^g	2回反復.
	*				露地マルチ	同上	定植後及びマルチ前	30～50 ^g	2回反復.
	*	IPC	クロロIPC	乳	(苗床)	同上	苗定植活着後	15～20 ^{ml}	
	*	NIP	ニップ	乳	(苗床)	同上	移植活着後	80～100 ^{ml}	
	*				(本畑)	同上	定植活着後	80～100 ^{ml}	
					半促成ハウス	同上	定植後及びマルチ前	80～120 ^{ml}	反復処理, 株間処理.
	*	CAT	シマジン	水和		同上	定植1か月後	5～10 ^g	
	*	レナシル	レンザー	水和		同上	植付後	10～15 ^g	
	*				(子苗床)	同上	活着後	5～10 ^g	
	*	クレダジン	クサキラー	水和	(親株床)	同上	定植活着後・ランナー発生前	40～60 ^g	
	*				(本畑)	同上	定植後	40～60 ^g	
	*				本畑	同上	マルチ前	40～60 ^g	
	*					同上	定植後及びマルチ前	30 ^g	反復処理.

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
イチゴ(続)		クレダジン	クサキラー	微粒	ハウス半促成,トンネルマルチ	土壌	定植後及びマルチ前	400~500g	反復処理,株間処理.
	*	アラクロール	ラッソー	乳	(親株床)	同上	定植後及びマルチ前	10~20 ^{ml}	反復処理.
	*				本畑ハウス	同上	定植後及びマルチ前	10~20 ^{ml}	うね間株間処理,反復処理.
	*				(寒地)本畑マルチ	同上	定植後及び春期マルチ前	15~20 ^{ml}	反復処理.
	***	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	
						同上	植付前	15~30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	***	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450g	うね間処理,雑草幼小期.
						同上	植付前	150~450g	雑草幼小期.
						同上	収穫後	150~450g	同上
		ペノキサリン(ANK-553)		乳	露地	土壌	活着後マルチ前	30~40 ^{ml}	
					ハウス半促成	同上	活着後マルチ前	20~40 ^{ml}	
		(S-28)	クレマート	乳	(親株床)	同上	定植後	20~40 ^{ml}	
					トンネルマルチ(促成)	同上	定植後及びマルチ前	20~40 ^{ml}	反復処理.
					ハウスマルチ	同上	定植後及びマルチ前	20~40 ^{ml}	同上
		(NTN-80)	トクノールM	水和	露地マルチ	同上	定植後及びマルチ前	定植後30~50g,マルチ前40g	
					ハウス・トンネルマルチ	同上	定植後及びマルチ前	定植後30~50g,マルチ前40g	
		(U-67)		水和	露地マルチ	同上	定植前及びマルチ前	30~40g	反復処理.
					ハウス・マルチ半促成	同上	定植後	40g	
					ハウス・マルチ半促成	同上	定植後及びマルチ前	30g	反復処理.
		同上		粒	ハウス・マルチ半促成	同上	定植後	400g	
					ハウス・マルチ半促成	同上	定植後及びマルチ前	300g	反復処理.
					露地マルチ	同上	定植前及びマルチ前	300~400g	反復処理.

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
イチゴ(続)		I P C・アラクロール		乳	寒露地	土壌	生育期	15~25 ^{ml}	
		フェンメディファム	ベタナール	乳	寒露地	茎葉	雑草2~3葉期	80 ^{ml}	
		ベスタック(DC-55)		乳	ハウス半促成	土壌	定植後及びマルチ前	100~200 ^{ml}	反復処理。株間処理。
					(親株床)	同上	移植後	100~200 ^{ml}	
ダイコン	*	アラクロール	ラッソー	乳		土壌	は種後	10~15 ^{ml}	
	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		同上	は種後	15~30 ^{ml}	
	*					土壌混和	は種前	15~30 ^{ml}	
	*	N I P	ニップ	水和	春まき	土壌	は種直後	30 ^g	
	*	同上	同上	乳		同上	は種直後	80~100 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒		同上	は種直後	400~600 ^g	
	*	C N P	M O	乳		同上	は種後	100~125 ^{ml}	
	*	C A T	シマジソ	水和		同上	は種直後	5 ^g	
	*	プロメトリン	ゲザガード	水和		同上	は種後	5~10 ^g	
	*	S A P・プロメトリン	エス	乳		同上	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理。雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期。
	*					同上	収穫後	150~450 ^g	同上
		(R H-315 T)		水和	春まき	同上	は種後	30~40 ^g	砂土は避ける。
カブ	*	N I P	ニップ			土壌	は種直後	80~100 ^{ml}	
	*	S A P・プロメトリン	エス			同上	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理。雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期。
	*					同上	収穫後	150~450 ^g	同上
ニンジン	*	C M M P	ダクロン	乳		茎葉兼土壌	第3本葉期以後	50~100 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
ニンジン (続)	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		土壌	は種前	20~30 ^{ml}	
						同上	は種後	20~30 ^{ml}	
					冬まき トンネル	同上	は種後	20~30 ^{ml}	
						(寒地)	同上	は種後	30~40 ^{ml}
					(寒地)	土壌 混和	は種前	15~30 ^{ml}	
						同上	は種前	15~25 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒		土壌	は種後	400~600 ^g	
						土壌 混和	は種前	300~500 ^g	
					寒地	同上	は種前	400 ^g	5cm以内 混和。
	*	リニュロン	アフアロン, ロックス			土壌	は種直後	10~20 ^g	
						同上	本葉2~3 葉期以降 の生育期	10~20 ^g	
	*	NIP	ニップ	乳		同上	は種後	80~100 ^{ml}	
						同上	生育期	80~100 ^{ml}	
	*	同上	同上	水和		同上	は種直後	40~60 ^g	
	*	同上	同上	粒		同上	は種後	400~600 ^g	
	*	IPC	クロロIPC	乳		同上	は種直後	50~60 ^{ml}	高温時処理 は不適。
	*	CNP	MO	乳		同上	は種後	125~150 ^{ml}	
	*	プロバジン	ゲザミル	水和		同上	は種後	15~20 ^g	
						同上	本葉1~ 2葉期	15~20 ^g	
	*	プロメトリン	ゲザガード	水和		同上	は種後	10~20 ^g	
						同上	生育期	10~20 ^g	
	*	SAP・ プロメトリン	エス	乳		同上	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*	石油系	シルバゾール	液 (油状)		茎葉	本葉2~ 3葉期	4~6 ^l	原液散布, 雑草発生後。
	*	パラコート	グラモキソン	液		同上	生育期	15~30 ^{ml}	
						同上	は種前	15~30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉 兼 土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理. 雑草幼小期。
						同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期。
						同上	収穫後	150~450 ^g	同上
	*	ペノキサリン (ANK-553)		乳	春~初夏 まき	同上	は種後	30~60 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
ニンジン (続)		ペノキサリン (ANK-553)		乳	冬～春まきトンネル	土壌	は種後	20～40 ^{ml}	
		(S-28)	クレマート	乳	春～初夏まき	同上	は種後	30～60 ^{ml}	
					冬まきトンネルマルチ	同上	は種前 マルチ前	20～50 ^{ml}	
		(NTN-80)	トクノールM	乳	春まき露地	同上	は種後	65～100 ^{ml}	
		同上	同上	水和	冬まき露地	同上	は種後	30～50 ^g	
					冬まきトンネル	同上	は種後	30～50 ^g	
					春～初夏まき	同上	は種後	25～50 ^g	
		同上	同上	粒	冬～春まきトンネルマルチ	同上	は種前 マルチ前	500～700 ^g	
		TCTP (DAC-893)	ダクター	水和	トンネル	同上	は種後	110～150 ^g	
					春～初夏まき	同上	は種後	110～150 ^g	
		ベスタック (DC-55)		乳	春まき露地	同上	は種後	150～200 ^{ml}	
					春まきトンネル	同上	は種後	100～200 ^{ml}	
ゴボウ		IPC・ リニュロン (SLD-695)	セルビーン	水和	(寒地)春まき露地	茎葉	本葉1～3葉期	25～30 ^g	雑草の生育初期。
		(MSP-1)	除草剤プロメトリン添加フィルム		春まき	被覆	は種後	—	は種後フィルム被覆。
	*	IPC	クロロIPC	乳		土壌	は種直後	50～90 ^{ml}	
	*	NIP	ニップ	乳		同上	は種後	80～100 ^{ml}	
	*					同上	生育期	80～100 ^{ml}	
	*	CNP	MO	乳		同上	は種後	125～150 ^{ml}	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15～30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15～30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15～30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩		水溶		茎葉兼土壌	生育期	150～450 ^g	うね間処理。雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150～450 ^g	雑草幼小期。
	*					同上	収穫後	150～450 ^g	同上
		トリフルラリン	トレファノサイド	乳	春まき	土壌	は種後	20～30 ^{ml}	
		ベスタック (DC-55)		乳	春まき	同上	は種後	100～200 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
ヤマノイモ	*	リニュロン	アフアロン, ロロックス	水和		土壌	植付後～ 萌芽前	10～15g	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15～30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15～30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15～30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15～30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉 兼 土壌	生育期	150～450g	うね間処理。 雑草幼小期.
	*					同上	は種前	150～450g	残草幼小期.
	*					同上	植付前	150～450g	同上
	*					同上	収穫後	150～450g	同上
		CMMP	ダクロン	乳		同上	植付後～ 雑草発生 初期	100～200 ^{ml}	
		トリフルラリン	トレファノサイド	乳		土壌 混和	植付前	20～30 ^{ml}	
						土壌	植付後	20～30 ^{ml}	
						同上	生育中	20～30 ^{ml}	うね間株間 処理.
		同上	同上	粒		土壌 混和	植付前	400～600g	
						土壌	植付後	400～600g	
						同上	生育中	400～600g	うね間株間 処理.
サトイモ	*	リニュロン	アフアロン, ロロックス	水和		土壌	植付後～ 出芽前	10～15g	
	*	CAT	シマジン	水和		同上	植付時及 び土寄せ 時	5～10g	反復処理.
	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		同上	植付後 マルチ前	30～40 ^{ml}	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15～30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15～30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15～30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15～30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉 兼 土壌	生育期	150～450g	うね間処理。 雑草幼小期.
	*					同上	は種前	150～450g	雑草幼小期.
	*					同上	植付前	150～450g	同上
	*					同上	収穫後	150～450g	同上
ショウガ		トリフルラリン	トレファノサイド	乳		土壌	植付後	20～40 ^{ml}	
						土壌 混和	植付前	30 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
ショウガ (続)		トリフルラリン	トレファノサイド	粒	(寒地)	土壌混和	植付前	600g	
					(寒地)	土壌	植付後	600g	
インゲンマメ	*	I P C	クロロ I P C	乳		土壌	は種直後	50~90 ^{ml}	
	*	E P T C	エプタム	乳		土壌混和	は種前	30~40 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒		同上	は種前	600~800g	
	*	I P C・リニュロン	セルビーン	水和		土壌	は種後～発芽前	20~24g	
	*	D N B P	プリマージ	液		土壌兼茎葉	は種後～発芽前	50~90 ^{ml}	
	*	プロメトリン	ゲザガード	水和		土壌	は種翌日～発芽開始2日前	10~20g	
	*	D N B P A	アレチット	水和		土壌兼茎葉	は種直後～発芽期	40~60g	
	*	P C P・リニュロン	ハタペット	水和		土壌	は種後～発芽前	80~100g	
	*	リニュロン	アフアロン、ロロックス	水和		同上	は種直後	10~12g	
	*	アラクロール	ラッソー	乳		同上	は種直後	30~40 ^{ml}	
食用ユリ		M C C	スエップ	粒		土壌	植付後及び生育中(春季発芽前)	植付後 100~130g, 生育中 70g	反復処理.
		C A T	シマジン	水和	(寒地)露地マルチ	同上	秋	20~25g	
					(寒地)露地マルチ	同上	春及び夏	20~25g	2回反復.
		トリフルラリン	トレファノサイド	粒	(寒地)露地マルチ	同上	秋	500g	
					同上	同上	春	500g	

財団法人日本植物調節剤研究協会編

Weed List in Asian-Pacific Area

各国の雑草の呼称名を学名と対照した雑草名鑑。学名に対し日本名、英名、ハワイ名、インドネシア名、中国名、台湾名、ソビエト名、韓国名を対照している。

A 4版 47ページ
定価 2,000円(送料別)

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育教会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番

第4表 未登録薬剤とその薬剤特性

薬 剤 名			有 効 成 分	含有率	剤型	作用 特 性	吸収部位
試 験 名	種 類 名	商 品 名					
ANK-553	ペノキサリン		N-(1-エチルプロピル)-3,4-ジメチル-2,6-ジニトロアニリン	30%	乳	非ホルモン吸収移行型.	根及び幼芽部から.
S-28		クレマート	0-エチル-0-(3-メチル-6-ニトロフェニル)-N-セカンダリーブチルホスホロチオアミデート	50%	乳	非ホルモン型.	幼芽部から.
NTN-80		トクノールM	0-メチル-0-(2-ニトロ-4-トリル)N-イソプロピルホスホルアミドチオネート	60%	水和	発芽発根伸長抑制.	幼芽部, 根部から.
DAC-893	TCTP	ダクター	2,3,5,6-テトラクロルテレフタル酸ジメチル	75%	水和	雑草の発芽時生長点部分に作用.	幼芽部及び根部から.
U-67			3,4,5-トリブロム-N,N-α-トリメチルピラゾール-1-アセトアミド	75% 6%	水和 粒	非ホルモン型. 吸収移行型.	根部, 幼芽部から.
SL-55			未 公 開			接触性	幼芽部及び生育初期の茎葉から.
R-7465	ナプロバミド	デブリノール	2-(α-ナフトキシ)-NN-ジエチルプロピオンアミド	50%	水和		根部, 幼芽部から.
NTN-70	メトリブジン	センコール	4-アミノ-6-テルトブチル-3-(メチルチオ)-1,2,4-トリアジン-5-(4H)-オン	50%	水和	光合成阻害.	根部, 茎葉部から.
NHKS			3,5-ジメチル-テトラヒドロ-1,3,5-2H-チアジアジン-2-オン		粉	発芽阻害 土壤中で有効化する. 茎葉処理効果なし.	
DC-55	ベスタック		4-テリアリーブチル-2,6-ジメチル-3,5-ジニトロアセトフェノン	20%	乳	非ホルモン型 茎葉処理効果はない.	
NK-049			3,3'-ジメチル-4-メトキシベンゾフェノン	50%	水和	非ホルモン吸収移行型.	幼芽部> 根部.
トリブニール			1,3-ジメチル-3-(2-ベンゾチアゾリール)ウレア	70%	水和	光合性阻害.	根部, 茎葉部から.

選択殺草性		殺草作用	殺草 Spectrum	処理適期幅 (除草効果)	薬害症状	持続効果 (残効性)	土壌中 の移動 性	土 壌 の 影 響	温 度 の 影 響
発芽時	1～3 葉 期								
極大		植物の生長点の細胞分裂を阻害し、根及び幼芽の生育抑制を示す。	キク科に劣る。	雑草発生前～発芽時	黄化	長	小	小	小
非選択性	イネ科 ⅤⅡ 広葉	発生防止、幼小雑草の枯殺。	イネ科：極大 広 葉：大 キク科：中	雑草発生前～発生始期	生育抑制	長～極長	小	小	小
イネ科 =広葉	効果劣る	雑草発芽時に幼芽部・根部の生長点部分に作用し、生長を抑制し枯死させる。	キク科に劣る。	雑草発生前	生長点に薬液が過剰に付いた場合は生育抑制	極長 (メヒシバ 45日)	小(表層1cm以内にとどまる)	小	小
イネ科 >広葉			イネ科、広葉に極大、キク科アブラナ科に小。	雑草発生前	生育抑制	36～40日	0～1cm	小	なし
全草種 に有効	効果不足	発芽阻止作用。	イネ科：極大、 カヤツリグサ科： 極大、広葉：極大。	雑草発生前		長	小	小	なし
			ノビエ、メヒシバ スズメノテッポウ ハコベ、タデ、 アカザ、ノミノフ スマ等に効果大。			長	小		
		雑草発生阻止。		雑草発生前					
効果大 (全草種)	効果大 (全草種)	根部、茎葉部から吸収され徐々に葉先より黄化し枯死に至る。	ツクサを含む一年生雑草。	雑草発芽前～雑草4～5葉期	下葉枯葉先枯黄化	極長 (広葉類 45日)	中	中	中
			広葉、禾本科植物間の選択性なし。	雑草発生前					
		種子の発芽時に最も強い殺草力を示す。	禾本科、広葉の一年生雑草の発生を抑えるタデ類にやや効果劣る。	雑草発生前		中	埴壌土1cm以内 砂壌土2cm以内		
イネ科 >広葉	イネ科 >広葉	クロロフィル生成阻害。	タデにはやや劣る。	雑草発生前～発生直後	白化	冬：極長 夏：長～中	極小	なし	低温>高温
効果大 (全草種)	効果大 (全草種)	根部、茎葉部から吸収され徐々に葉先より黄化し枯死に至る。	スズメノテッポウハコベを含む秋冬期1年生雑草。	雑草発生前～雑草2～3葉期	下葉枯葉先枯黄化	極長	小	小～中	中

除 草 剤 使 用 面 積 一 覧 表

〔水田用除草剤〕

(昭和51年10月25日現在)

区 分	除 草 剤 名		昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和
	一 般 名	商 品 名	47年度	48年度	49年度	50年度	51年度
(1)土壌混和 処理剤	オキサジアゾン	ロンスター乳剤	千ha 42.2	千ha 162.0	千ha 191.0	千ha 317.7	千ha 562.6
(2)土 壌 処理剤	P C P	P C P水溶剤	11.0	5.6	22.5	0.0	0.0
	P C P	P C P粒剤	88.7	47.0	17.9	0.0	0.0
	P C P・M C P	バムコン、ベアサイド粒剤	234.5	94.9	56.8	56.3	16.6
	P C P・M C P B	マノック粒剤	0.9	3.9	0.0	0.0	0.0
	P C P・D C B N	P P粒剤	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	P C P・M C P E	パーロックK、パーロックD粒剤	1.8	1.9	0.0	0.0	0.0
	P C P・D B N・M C P B	エビデン粒剤	4.0	1.5	0.0	0.0	0.0
	P C P・D B N・D C B N	トリサイド粒剤	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	M C P C A	マビカ粒剤	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	N I P	ニップ粒剤	235.7	256.2	195.0	138.0	43.0
	N I P・M C P	ニップQ粒剤	26.7	30.5	0.0	0.0	0.0
	C N P	M O 乳剤	0.3	0.3	0.4	0.0	0.0
	C N P	M O 粒剤	1,401.4	1,533.6	1,656.7	1,536.8	1,319.6
	プロメトリン	ゲザガード粒剤	27.1	36.6	85.6	96.3	56.4
	D B N	カソロン水和剤	0.2	0.1	0.6	0.0	0.0
	D B N	カソロン粒剤	24.6	18.4	22.9	16.9	9.1
	D C B N	プレフィックス粒剤	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	M C P・C N P	アンモサイド、 ハイカット粒剤	141.3	265.0	92.4	44.1	21.6
	プロメトリン・M C P B	ゲザエム粒剤	48.1	94.5	40.9	21.9	12.6
	A C N・M C P B・N I P	モゲサンド粒剤	15.4	45.7	45.0	34.9	3.5
	C N P・クレタジン	クサキラーグリーン粒剤	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	ベンチオカーブ	サターン乳剤	14.7	21.3	30.1	27.1	23.5
	ベンチオカーブ	サターン粒剤	7.9	16.8	36.7	49.0	63.2
	ベンチオカーブ・C N P	サターンM粒剤	168.0	230.8	327.9	307.6	336.0

区 分	除 草 剤 名		昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和
	一 般 名	商 品 名	47年度	48年度	49年度	50年度	51年度
(2)土 壌 処理剤 (つづき)	トリフルラリン	トレファノサイド粒剤	千ha 1.0	千ha 1.1	千ha 2.1	千ha 0.7	千ha 0.8
	トリフルラリン・MCPAN	エムフラン粒剤	6.6	3.6	5.7	2.5	0.0
	トリフルラリン・MCP	トレモリン粒剤	32.7	40.8	32.3	12.5	2.6
	ブタクロール	マーシェット粒剤		13.2	126.0	177.2	219.7
	クロメトキシニル	エックスゴーニ粒剤		33.1	237.3	301.8	324.5
	CNP・ダイムロン	ショウロンM粒剤					6.5
	SAP・メトキシフェノン	カヤフェノン粒剤					0.0
	ベンチオカーブ・プロメトリン	サターンバァロ乳剤					10.0
	小 計		2,495.1	2,796.4	3,034.8	2,823.6	2,469.2
(3)茎葉兼土 壌処理剤	MCC	スエップ水和剤	15.8	20.8	24.9	21.1	6.0
	MCC・MCP	スエップM粒剤	244.9	227.0	184.0	160.9	116.4
	シメトリン	ギーボン粒剤	11.6	8.8	3.5	1.1	0.0
	ベンチオカーブ・シメトリン	サターンS粒剤	941.5	1,155.9	1,363.5	1,276.7	1,096.0
	シメトリン・MCPB	パウナックスM粒剤	26.7	32.7	38.5	26.4	43.9
	シメトリン・フェノチオール	グラキール粒剤	11.0	14.3	18.1	32.2	38.7
	シメトリン・クレダジン	クサトリー粒剤	4.5	1.4	0.0	0.0	0.0
	モリネート	オーDRAM粒剤				3.6	1.4
	モリネート・シメトリン	マメット粒剤	41.4	105.2	213.8	190.5	156.5
	モリネート・シメトリン・MCPB	マメットSM粒剤				134.0	305.0
	モリネート・チオクロルメチル	オーDRAMK粒剤					0.4
	ジメタメトリン・ピペロホス	アビロサン粒剤					78.3
	ジメタメトリン・ピペロホス・ベンタゾン	ワイダー粒剤					8.5
	MCPB・シメトリン・ベンチオカーブ	クミリードSM粒剤					112.0
	ベンチオカーブ・シメトリン・ベンタゾン	エスグラン粒剤					1.8
	TOPE	アタックウィート乳剤	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0
	小 計		1,297.6	1,566.2	1,846.3	1,846.5	1,964.9
(4)茎 葉 処理剤	2,4PA類	2,4-Dソーダ塩, 2,4-Dアミン塩, 2,4-D水和剤	585.2	356.4	460.1	297.7	121.5
	2,4PA	粒状水中2,4-D	174.8	185.5	250.5	196.4	114.0
	MCP類	MCPソーダ塩等	19.2	22.6	39.7	55.5	43.0

区 分	除 草 剤 名		昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和
	一 般 名	商 品 名	47年度	48年度	49年度	50年度	51年度
(4)茎 葉 処理剤 (つづき)	M C P	粒状水中M C P, 水中M C P水和剤	千ha 224.8	千ha 238.9	千ha 324.3	千ha 319.7	千ha 233.5
	B P A	ベスコ液剤	7.0	0.7	1.1	0.0	0.0
	M C P B	粒状水中M C P B, 水中M C P B水和剤	10.5	10.3	8.1	7.3	6.2
	フェノチオール	ゼロワン粒剤	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
	D C P A	スタムデービー乳剤	13.5	32.5	37.9	35.4	16.6
	D C P A・C H C H	グラサイド乳剤	7.0	1.0	0.8	0.0	0.0
	A C N	モゲトン粒剤	4.7	11.8	18.0	22.5	29.0
	ペンタゾン	バザグラン粒剤				3.7	24.9
	ペンタゾン	バサグラン水和剤				1.3	7.0
	2,4 P A・ペンタゾン	グラスジンD粒剤				7.5	13.4
	2,4 P A・ペンタゾン	グラスジンD水和剤				4.6	8.0
	M C P・ペンタゾン	グラスジンM粒剤				8.1	18.5
	M C P・ペンタゾン	グラスジンM水和剤				1.2	1.8
	小 計		1,046.7	859.8	1,140.5	960.9	637.4
(5)水稲刈跡 耕起前, 休耕田, 畦畔等処 理剤	パラコート	グラモキソン液剤	261.0	154.2	85.3	59.2	163.7
	M C P・DCMU・D P A	ボミカルDM水和剤					6.2
	2,4 P A・A T A	カリアトール水和剤	1.6	9.7	23.9	0.0	0.0
	2,4 P A・A T A	カリアトール微粒剤	0.5	5.2	0.0	0.0	0.0
	小 計		263.1	169.1	109.2	59.2	169.9
(6)除草剤肥 料	N I P尿素		0.1	0.3	0.0	0.0	0.0
	N I P複合肥料		0.1	0.5	0.0	0.0	0.0
	小 計		0.2	0.8	0.0	0.0	0.0
合 計			5,144.9	5,554.3	6,321.8	6,007.9	5,804.0

〔畑作用除草剤〕

区 分	除 草 剤 名		昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和
	一 般 名	商 品 名	47年度	48年度	49年度	50年度	51年度
(1)土 壌 処理剤 〔対象：一 般畑作・花 き〕	P C P	P C P水和剤	千ha 98.8	千ha 76.8	千ha 42.1	千ha 11.5	千ha 20.9
	P C P	P C P粒剤	22.2	11.2	44.9	5.4	7.0
	D N B P	プリマージ液剤	38.2	65.2	81.8	138.7	57.4
	D N B P A	アレチット液剤	12.4	11.1	13.1	14.2	9.5

区 分	除 草 剤 名		昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和
	一 般 名	商 品 名	47年度	48年度	49年度	50年度	51年度
(1)土 壌 処理剤 (つづき)			千ha	千ha	千ha	千ha	千ha
	リニュロン	アフアロン, ロロックス 水和剤	53.0	104.7	125.1	146.7	38.1
	C A T	シマジン水和剤	552.0	554.7	620.1	547.1	227.0
	C A T	シマジン粒剤	42.2	90.4	234.0	188.7	60.0
	プロバジン	ゲザミル水和剤	6.0	6.0	7.4	3.4	4.5
	プロメトリン	ゲザガード50水和剤	0.0	0.0	1.5	1.2	0.4
	ジフェナミド	ダイミッド, エナイド水和剤	4.0	3.1	3.3	2.3	4.7
	N P A	アラナップ液剤	0.6	0.4	0.3	0.0	0.0
	レナシル	レンザー水和剤	21.0	7.5	16.4	4.8	3.3
	I P C	クロロ I P C乳剤	94.0	43.1	50.1	61.2	26.1
	N I P	ニップ乳剤	21.4	12.7	19.8	23.1	14.4
	C N P	M O乳剤	0.1	0.5	0.5	0.2	0.3
	トリフルラリン	トレファノサイド乳剤	37.3	28.5	46.6	50.7	24.0
	トリフルラリン	トレファノサイド粒剤	25.0	26.7	40.7	36.3	35.0
	D C M U	カーメックス, ダイロン水和剤	84.0	128.9	114.3	76.8	103.6
	アメトリン	ゲザパックス水和剤	9.0	9.8	10.3	20.6	0.0
	D B N	カソロン粒剤	2.4	4.6	15.4	8.3	13.5
	アトラジン	ゲザブリン50水和剤	33.0	27.8	37.9	17.9	30.9
	E P T C	エプタム乳剤	0.4	0.4	0.5	0.3	0.7
	E P T C	エプタム粒剤	1.3	1.9	2.6	3.7	4.0
	ベンチオカーブ・プロメ トリン	サターンバアロ乳剤				7.8	10.1
	C A T・プロメトリン	キャンパロール水和剤					0.0
	バーナレート	バーナム粒剤	1.1	1.2	0.9	1.1	1.2
	S A P・プロメトリン	エス乳剤	4.8	2.7	3.6	2.5	1.0
	アラクロール	ラッソー乳剤	2.0	5.2	6.4	6.3	14.4
	M C C	スエップ水和剤					1.0
	M C C	スエップ粒剤	8.4	3.6	2.7	2.4	2.3
	I P C・D C M U	ハービサン水和剤	1.0	1.2	2.7	5.4	2.8
	I P C・リニュロン	セルビーン水和剤	0.7	0.2	2.2	0.6	0.1
	レナシル・P A C	レナパック水和剤	10.0	14.3	15.2	5.1	15.6
	ニトラリン	プラナビアン水和剤		1.6	3.9	3.9	3.6
	シブラジン	アウトホックス水和剤					0.0

区 分	除 草 剤 名		昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和
	一 般 名	商 品 名	47年度	48年度	49年度	50年度	51年度
(1)茎 葉 処理剤 (つづき)	クレダジン	クサキラー水和剤	千ha 0.3	千ha 0.2	千ha 0.3	千ha 0.5	千ha 0.6
	N I P	ニップ粒					1.4
	小 計		1,187.0	1,246.2	1,566.7	1,397.7	739.4
(2)茎 葉 処理剤 〔対象： 一般畑 作・野菜 ・花き〕	M C P (Na)	M C Pソーダ塩水溶剤	6.3	7.6	7.2	7.8	14.4
	D C P A	スタム，デービー乳剤	26.8	35.4	13.9	16.9	20.9
	C M M P	ダクロン乳剤	4.3	2.9	2.0	0.8	1.1
	アイオキシニル	アクチノール乳剤	3.3	5.5	6.9	8.1	4.4
	D C N P	クリノン水溶剤	6.7	3.2	0.0	0.0	0.0
	フェンメディファム	ベタナール乳剤	13.0	20.1	27.5	19.7	21.2
	シプロミッド	クローバー乳剤					0.0
	D N O C	D N O Cソーダ塩水溶剤					0.0
	ジクワット	レグロックス乳剤					65.5
	パラコート	グラモキソン液剤					162.4
	キサントゲン酸塩	デシコーン水溶剤	7.0	8.3	0.3	0.3	0.0
	C M P T	セレクト水和剤	4.8	3.0	4.1	11.9	0.1
	小 計		72.2	86.0	61.9	65.5	290.0
(1)土 壌 処理剤 〔対象： 果樹園 ・桑園 ・茶園 ・林地 ・芝・ 牧野草 地〕	シデュロン	チェパサン水和剤	2.2	6.0	6.1	3.3	3.8
	ベスロジン	バナフィン乳剤	0.1	0.5	0.5	0.4	0.2
	M B P M C ・ M C P	エーザック水和剤	2.0	2.5	6.7	8.0	8.0
	P C P ・ D C M U	クワロン粒剤	2.4	0.1	1.7	0.0	0.0
	S A P	ロンパー乳剤				1.9	1.1
	T C T P	ダクター水水和剤	2.6	3.3	3.5	3.8	4.6
	プロピザミド	カーブ水和剤					4.8
	A T A ・ アトラジン	ドマトール水和剤	1.6	1.7	2.6	3.6	0.0
	A T A	ウィダゾール水溶剤	7.3	3.3	0.0	0.0	0.0
	A T A ・ D C M U	ポミカル，アプレックス 水和剤	5.3	4.9	3.7	0.0	0.0
	ナプロパミド	クサレス水和剤					3.5
	エースフェノン	キャストイト乳剤					0.0
	オルソベンカーブ	ランレイ乳剤					0.0
	D P A	ダウボン粒剤	0.3	0.1	0.3	0.4	2.1
	P A C ・ B I P C	アリセップ水和剤	5.4	11.6	4.6	7.8	2.9

区 分	除 草 剤 名		昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和
	一 般 名	商 品 名	47年度	48年度	49年度	50年度	51年度
(1)土 壌 処理剤 (つづき)	N I P	ニップ水和剤	千ha	千ha	千ha	千ha	千ha
	ブロマシル	ハイバーX水和剤	38.8	49.8	48.5	21.3	23.3
	シアノ酸塩	シアノン水溶剤	11.4	6.9	6.2	4.4	4.8
	アシュラム	アージラン液剤	5.8	14.1	8.3	7.3	9.0
	ブロマシル	ハイバーX粒剤	0.4	1.5	2.1	0.4	0.4
	小 計		85.6	106.3	94.8	62.6	77.0
(2)茎 葉 処理剤 【対象：】 果樹園 ・桑園 ・茶園 ・林地 ・芝 ・牧草地	M D B A	バンベルD液剤	0.0	0.0	0.4	0.2	0.8
	M C P	ヤマクリーンM乳剤					0.0
	アメトリン	ゲザパックス乳剤					5.6
	アメトリン	粒状ゲザパックス3				1.8	2.9
	M C P ・ D P A	ヤマクリーン微粒剤				0.3	0.6
	D C P A ・ N A C	ワイダック乳剤	17.7	13.6	20.7	7.2	2.3
	D C P A ・ M P M C	メオダック乳剤				0.3	0.1
	D C P A ・ X M C	クサカール乳剤	1.0	0.7	0.6	0.0	0.0
	D C P A ・ M T M C	ロンリーフ乳剤			0.3	0.1	0.1
	スルファミン酸塩	イクリン水溶剤	0.5	0.3	0.1	0.1	0.2
	スルファミン酸塩	スルカット粉剤	0.0	0.2	0.2	0.2	0.8
	M C P ・ スルファミン酸塩	ヤマクリーンA粉剤			0.1	0.4	0.1
	M C P P	M C P P液剤	4.3	3.5	3.0	3.1	3.2
	D S M A ・ M C P P	D S C P液剤	0.5	0.5	1.0	3.9	0.6
	D S M A ・ M C P P	D S C P粉剤	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0
	D P A ・ テトラピオン	クズノック微粒剤					7.5
	2,4 P A ・ 2,4,5 - T P	プシュロン粒剤			0.4	0.3	0.0
	塩素酸塩・弗化ナトリウム	クロレートF E	0.3	0.4	0.3	0.1	0.0
	2,4,5 - T ・ スルファミン 酸・硫酸アンモニウム	ブラッシュパン, イクリンエイト	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0
	パラコート	グラモキソン液剤	522.3	788.3	1,141.4	818.4	677.3
	B P A	ベスコ					1.2
	シアノ酸塩・DCMU	ゼットシアン水和剤	9.2	6.5	0.3	0.0	0.0
	DCMU・ターバシル	ゾーバー水和剤			1.3	0.1	2.7
	D P A	ダウボン微粒剤	0.3	0.1	0.1	0.3	0.5
	D P A	ダウボン水溶剤	10.0	8.1	5.5	16.4	3.6

区 分	除 草 剤 名		昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和
	一 般 名	商 品 名	47年度	48年度	49年度	50年度	51年度
(2)茎 葉 処理剤 (つづき)	塩素酸塩	クサトール,クロレートS 粉剤	千ha 24.6	千ha 32.1	千ha 75.5	千ha 17.1	千ha 2.6
	塩素酸塩	クサトール,クロレートS 粒剤					6.6
	塩素酸塩	クサトール F P クロレート S L 水溶剤	79.8	104.4	84.1	40.8	41.1
	テトラピオン	フレノック粒剤	2.1	1.6	4.3	9.1	1.8
	テトラピオン	フレノック液剤	0.1	0.1	0.1	0.6	0.5
	ターバシル	シンバー水和剤					0.1
	ピクロラム	ケイピン	0.9	3.3	4.8	2.5	3.3
	ジクワット	レグロックS液剤	64.3	71.4	106.4	91.3	35.0
	小 計		738.1	1,035.3	1,451.2	1,014.6	801.1
合 計			2,082.9	2,473.8	3,174.6	2,540.4	1,907.5
総 合 計			7,227.8	8,028.1	9,496.4	8,548.3	7,711.5

(財団法人 日本植物調節剤研究協会試算)

注) ① この統計表の算出にあたっては、各メーカーより報告された出荷数量を基とした。

② 使用面積の算出にあたっては、10a 当り使用量の平均値を用いて換算した。

植 調 協 会 だ よ り

◎ 会議開催日程のお知らせ

- ・ 昭和51年度水稲・畑作関係除草剤、生育調節剤試験成績中央検討会

日時：昭和51年12月15～18日

場所：教育会館（千代田区霞が関3～2～3）

- ・ 昭和51年度春夏作野菜・花き関係除草剤、生育調節剤試験成績検討会

日時：昭和51年12月8～10日

場所：健保会館（千代田区四番町5-7）

編 集 後 記

霜月に入ると、立冬から小雪へと向う。今年は景気も全般的に思わしくなく、立ち直る気配もない。しかし、それでも日本経済は、世界的には西独につづいて2番目に安定しているのだそう。除草剤の普及も伸びなやみ、売上高は値上げ分だけが伸びたという程度。そのためか、耕地での雑草が目だち、ことに畑休耕地などでの雑草の多いのに驚く。これから冬に向い、火災には充分の注意が必要だ。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和51年11月発行

植調第10巻第8号

¥250(送料140)

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番

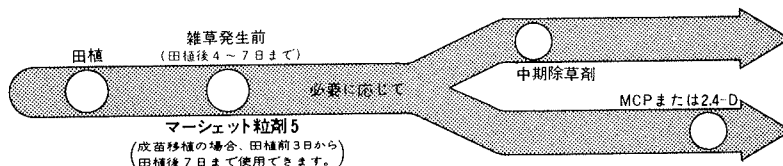
水田除草は「初期」が勝負です 確かな除草剤をすすめたい…



つらい“ヒエ抜き”から皆さんを解放してあげてください！

大切な初期除草に、確かな効きめが長く続くマーシェット粒剤5が決め手になります。がんこなヒエに抜群の効果。もう、腰を曲げ曲げ“ヒエ抜き”に苦勞することはありません。さらに、最近各地で問題になっているホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカなどにもよく効きます。

●土壌処理剤ですから、必ず「雑草発生前」の散布をおすすめください。



※ウリカワ、オモダカ、ヒルムシロなどの多発田では、より確実に防除するため、マーシェット粒剤5の処理後、適期にこれらの草に効く専用防除剤の処理をおすすめします。

水田初期除草剤の決定版

マーシェットTM 粒剤5

TM米国モンサント社商標

マーシェット普及会
三 共(株) 日本農薬(株) 北興化学工業(株)

事務局
日本モンサント株式会社
〒100 東京都千代田区霞が関3-8-1 虎の門三井ビル

一年生雑草から多年生雑草まで一

効きめ 確か。



強力 水田中期除草剤

グレートSM 粒剤
エス エム

本剤は、ノビエをはじめ一年生雑草マツバイはもとより、オモダカ科のウリカワ、カヤツリグサ科のホタルイ、ミズガヤツリなどの多年生雑草まで、幅広くすぐれた除草効果を発揮します。

農業協同組合・経済連・全農・クミアイ化学



申込みは皆様の農協へ

期待に応えて新登場!!

多年生・一年生
雑草の同時防除に

ラットSM 粒剤

- ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、ヘラオモダカなど、最近急激に問題化している多年生雑草をも防除できます。
- ノビエの3～4葉期処理でも卓効があります。散布適期幅が広いので、労力配分が容易で大変省力的です。



八洲化学工業株式会社

東京都中央区日本橋本町1-6(大和ビル)



三笠化学工業株式会社

福岡市中央区天神4-9-1